

# ★ ★ ★ Planete bonobo ★ ★ ★

## ボノボの惑星

「Planete bonobo JANUARY – FEBRUARY – MARCH 2009」の簡訳です

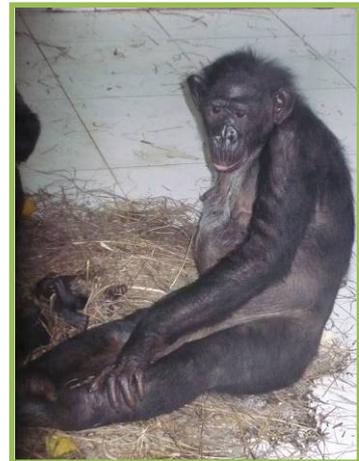
DR コンゴの首都キンシャサに、ボノボたちの住む場所があります。ボノボたちの本当のすみかは森の奥。ふかいふかいジャングルなのですが、私たち人間がすみかのジャングルに入っていくようになり、ボノボの森は楽園ではなくなってきています。森に入った人間たちにボノボの大人は食用にされることがあります。いっしょに捕らえられたこどもはペットとして売られるのですが、保護された3歳以上のこどもたちがこのボノボのいる場所にやってきます。それより小さいこどもは親と離れては育たないのです。そんなボノボのいる場所の毎日を、少しお話ししましょう。

### 2009年1月から3月のできごと...



Nice and round

私たちと18年間家族としてくらしてきた Mimia. 同じ物を食べ、テレビを楽しみ、文字を書くまねまでしていた私たちのお姫様。ローラの森の仲間になってからは仲間に慕われ、妊娠中はおちびさんたちの相手も上手にできて、きっと良いお母さんになれるだろうと思われたのに。Mimia は出産のあとに敗血症で亡くなってしまいました。育児放棄された男の子も育ての親のスタッフや看護師のてあてのかいなく手の届かないところへ行ってしまうました。



Mimi and Clo (photo C. d'Hauthuille/ABE)

Mimia は APE と人間はコミュニケーションをとることで、種間のかきねを越えられると教えてくれた大切な友人でした。

悲しくて心にぽっかり穴があいたようです。



悲しみの連鎖はとまりませんでした。



Lodja

病院はいつも忙しく  
スタッフの不眠不休の看病が続きました。



Nkumu ya Lola

ボノボにときどきあるのですが、突然の体調不良に加え血便がみられた子。彼女は幸運にも元気を取り戻しました。その回復にほっとしたのもつかの間、インフルエンザがローラの森の仲間たちをつぎつぎに襲ったのです。獣医師にも常駐をお願い

し病気の子の隔離もしたのですが、写真の子たちの命が虚しくうばわれて行きました。



Mixa



Kindu

そんな中でも、嬉しい誕生がありました。可愛い男の子が生まれ、リンガラ語で弟と言う意味の名前がつけられました。

この子の誕生から嬉しいことが続きました。



フランスではわたしたち **LOLA YA BONOBO** の写真集が出版されました。その本をサルコジ大統領夫人に寄贈したところ、今後のサポートを約束する心強い礼状が届きました。



そして、10年来自然教育活動を担当しているスタッフが、フランスの **AWELY** という団体より

表彰されました。その教育プログラムはコンゴ民主共和国の首都キンシャサで、年間15,000人の学生が学ぶまでになっています。彼は2008年に国際霊長類学会のベストエデュケーター賞を受けており、二度目の受賞となりました。

今回の賞ではともに助け合う私たち全員が表彰されたと言えるでしょう。もちろん、戦争中も長きに渡り公園を守った保護官たちも。彼らの仲間には銃弾に倒れた者もいるのです。



このころは、病気も沈静化して、やっと一息。

スタッフの一人が辞めていき、入れ替わるように新しい子供がやってきました。キンシャサと名付けられた5歳ほどのその子は保育施設の仲間になりました。

3月は本当に大変な1ヶ月でした。今も今後の対策についての会議が続いています。ふう。。。

(続きはまたアップします。お楽しみに…)